

しまねろうふく

新年号



祝 石見銀山 世界遺産登録 大田市五十猛町の正月「夕回」行事



年頭のあいさつ

島根県労働者福祉協議会

会長 大崎 康弘

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、希望に満ちた新年をお迎えの事とお慶び申し上げますとともに、昨年一年間、会員及び関係者の皆様に支えられ活動が展開できましたことに、心からお礼申し上げます。

さて、私たちは「労働を中心とする福祉型社会」の実現をめざし、これまでも様々な活動を行ってきましたが、私たちの地域社会は、人口減少、少子高齢化など様々な問題を抱えています。

これらの問題に対して、私たちは県内最大の福祉団体として、勤労者の生活向上のためのライフプランセミナーや地域参加を基本的考え方とする地域貢献活動などを実践してきました。

本年はこうした事業を進めていくとともに、更に、ワンストップサービスなど時代の流れに即した事業や、より開かれた公益性の高い組織として法人化への改編などについて、皆様と議論を深め具体的な活動を推進していきたいと思っています。

将来に向けて、「存在感のある」「労福協ならではの」活動を展開するため、連合を始めとする労働団体や労金・労済・済・生協連などの事業団体と連携し、本年も精一杯取り組む所存であります。

会員・関係各位のご支援・ご協力を心からお願い申し上げ、皆様のご多幸を祈念し年頭のご挨拶といたします。

新年あけましておめでとうございます。

昨年2007年は、連合をはじめ、各事業団体との「協働」による「暮らしにかかわるサポート事業」の取り組みが本格的になり、多くの県でサポートセンターが設立され、相談活動が始まりました。

また、クレ・サラ問題に引き続き割賦販売法改正に関しては、法曹界や消費者団体と連携を回り、中央労福協発足以来、初めての街頭宣伝と署名活動を都内の主要駅で実施し、悪徳商法に対する消費者保護を強烈にアピールしました。また、地方労福協においても強力な運動体制を構築いただきました。その結果、11月末の産業構造審議会の割賦販売に関する小委員会の最終報告案においては、「過失を要件としない既払金返還責任の導入」や「過剰与信防止の具体的な調査義務」等が盛り込まれ、運動の成果を勝ち取ることができました。しかしながら、店舗販売や通信販売に関して、既払金返還責任は触れられておらず、いくつかの課題が残りました。今後は、国会での法案化の段階での課題の克服をめざして、中央労福協に結集す

る各団体での署名活動を推し進め、全国での運動を引き続き展開する必要があります。

昨年7月の参議院選挙では、与党が大敗し衆・参「ねじれ国会」となりました。小泉政権を継続した安倍政権は短命に終わり、福田政権へ変わりましたが、国民の生活に直結する政策はなんら具体化されていません。われわれ働くものを取り巻く環境は、格差社会や「働く貧困層の拡大」等ますます悲惨な状況となっています。年金や医療などの社会保障は揺らぎ、非正規雇用の増加という不安定な雇用構造の中で、勤労国民の暮らしは危機的な状況にあるといっても過言ではありません。

私たちは、こうした格差社会や貧困の現実を直視し、社会の不条理に立ち向かわなければなりません。人としての尊厳が保障され、「支え合いと助け合い」の原理が活かされる社会、ぬくもりのある社会を目指す必要があります。そのためには、これまでの労働運動を発展させ、広く市民に根ざした社会運動へと転換させる必要があります。

高金利引下げ運動や割賦販売法改正で連携を進めてきた法曹界や消費者団体、暮らしに関わるサポート事業で提携しているNPO団体と手を取り合い、これまでの連合や事業団体と取り組んできた地域運動を、NPO団体等地域運動と連携し、イデオロギーの枠を超えた社会運動として高め、社会から共感の得られる運動を、日本社会全体に役立つ運動を、皆さんとともに作り上げていきたい。2009年に迎える中央労福協60周年の礎としたい。そのために、労福協は、連合労働運動を中心に働く人たちがすべてに連帯を呼びかけ、ワンストップ・サービス「暮らしのサポートセンター」を地域の拠り所として、地域社会の再生・活性化に向けて、皆の力合わせて暮らしの安全弁になります。

困っている人たちの悩みは「ほっとけない」。それを解決する力を眠らせておくのは「もったいない」。失敗するかもしれないが恐れず「へこたれない」で2008年を頑張り合いましょう。

松江 錦織 清人

新年あけましておめでとうございます。国政の混乱や、ガソリンなど生活関連商品の値上げにより、暮らし向きが悪くなるとこそ、原点に戻り会員の協同・協力により中小未組織労働者のための福祉向上を目指します。

安来 横田 一道

新年明けましておめでとうございます。

構造改革・規制緩和による経済成長の結果、ワーキングプアという言葉に象徴される格差社会が出現し、現在では地域格差、医療格差、教育格差と様々な場面で言われています。県労福協においては格差解消の一手段として一日も早くワンストップサービスを開始することが必要ではないでしょうか。

また、地区労福協においては、ボランティア活動を始めとする地域貢献活動により労福協の認知度を高めていくことが必要です。

ぜひ会員皆様のご協力をお願いします。

雲南 大垣 照子

新年あけましておめでとうございます。

格差社会日本、働いても働いてもワーキングプア。仕事は同じでも正規と非正規社員の賃金格差や労働条件の違い、若い世代の中にもこれ等の格差があり、結婚は元より子育てができない現状があります。

一方で団塊世代の大量退職、少子高齢化や限界集落等々、この地域でも人々は大変な思いをしながら生活しています。

大変な時代・社会だからこそ心に明かりと希望を持って、今年も皆さんと一緒に労働者福祉の向上と更なる発展を目指し、楽しい労働活動をしていきたいと存じます。

年頭にあたり会員ご家族の皆さま共どものご健康とご多幸をお祈りし、本年もよろしく願い申し上げます。

出雲 藤江 晃

景気は緩やかな回復基調とされていますが、地方ではその兆しが見えない状況です。構造改革路線の影で、働いても十分な収入が得られないワーキングプアと呼ばれる労働者も多く、労働者を取り巻く情勢は依然として厳しい状況です。

また、年金記録問題、定率減税廃止、税源移譲による可処分所得の減少など、勤労者の将来生活への不安は高まるばかりです。さらに、団塊世代の大量退職による労働力人口の減少は、労働者福祉活動にも深刻な影響を与えかねません。

こうした状況だからこそ勤労者が正当に報われる「福祉型社会」の実現に向けた取り組みが、労福協の担うべき役目であると考えます。

地域で働くすべての人々や家族の暮らしの安心と幸せづくりをめざして活動を進めていきます。勤労者の生活・福祉向上という労働活動の基本を大切に、会員一人ひとりが積極的に活動に参加して行きましょう。

邑智 有田 恭二

新年明けましておめでとうございます。この言葉に希望等を託して新たな年を歩みます。ささやかな望みや幸福感さえ共有できない今を仕方なく支えずに、暮らしを脅かす仕組みに負けず、労働活動を進めましょう。

地区会長

2008年の決意 謹賀新年



労働者福祉
中央協議会

会長 笹森 清

江津

野海 修二

新年あけましておめでとうございます。

三役を一新し新しくなった江津地区労福協、障子貼りボランティアをはじめとする各種地域貢献活動を通じて働く者の連帯を高め、また、地域住民と一体となった労福協にしたいと思っています。今後も、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

大田

福田 実

新年明けましておめでとうございます。

景気拡大の実感はまだ依然地方において実感はありませんが、そのような中で昨年、大田地区において「石見銀山遺跡とその文化的景観」が世界遺産に登録され、関連の諸施設や観光客の受け入れ体制の整備が進んでいます。

地区労福協も地域貢献の観点から大田地域の活性化に向けて更なる協力をしていきたいと考えます。

本年もご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

隠岐

平田 芳春

新年明けましておめでとうございます。

地方に住む私たちにとって、仕事以外でも地域と関わりを持つことは非常に重要です。隠岐地区労福協では、今年もボランティア活動を中心に地域の中で活発に活動していきます。

益田

吉岡 勝弘

新年、明けましておめでとうございます。

2008年が私達勤労国民にとって、一歩でも二歩でも暮らしが上向きになることを念じて止みません。しかし、事態は国、地方共財源不足で、ますます社会保障や医療保障等にしわ寄せをし、さらに消費税の増税を政府が唱えるに及んで厳しい生活環境が懸念されます。このような状況を打破する為にも今年は一層関連事業団体、労働運動等と連携を強め自らの福祉を高め、生活を守るために頑張ります。

浜田

河野 正雄

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。浜田地区労福協は、今後も会員や地域に根ざした活動に全役員一丸となり取り組んでいきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

2007年度 勤労者福祉キャンペーン (報告)

2007年度 勤労者福祉キャンペーン ライフプランセミナー (報告)

今年で6年目を迎えました「ライフプランセミナー」は、10月28日(安来会場)を皮切りに、「勤労者福祉向上キャンペーン」の一環として、島根県、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体中央会、県経営者協会、山陰中央テレビジョン放送(株)、中国労働金庫島根県本部、全労済島根基本部、(財)県東部勤労者共済会、(財)県西部勤労者共済会など、多くの事業団体よりご協力を頂き、11月10日に雲南会場、11月17日に大田会場の県下3会場で開催しましたところ総数182名のご参加を頂きました。各会場とも盛大に開催することができ、お陰様で滞りなく成功裡に事業を終了することができました。



安来会場の様子



雲南会場の様子



大田会場の様子



記念講演 講師 佐々木 亮先生



中国労働金庫 ファイナンシャルプランナー



全労済 ファイナンシャルプランナー



演劇の様子



熱演されたNPO リーガルネットワークしまねの皆さん



2007 ライフプランセミナー アンケート集約

会場	開催日	参加者数(人)	回収数(人)	回収率(%)
安来	10月28日(日)	42	26 男 20 女 6	61.9
雲南	11月10日(土)	86	40 男 28 女 12	46.5
大田	11月17日(土)	54	14 男 11 女 3	25.9
全体		182	80 男 59 女 21	44.0

各会場と項目 下記問5の回答 → ()	良かった (思う)	まあまあ (思わない)	良くなかった (どうとも思えない)
(安来)			
1.講演について	15	8	1
2.ライフプラン設計	14	12	0
3.社会保障制度	16	9	1
4.セミナー全体について	13	12	0
5.会場での開催について	(16)	(1)	(8)
(雲南)			
1.講演について	35	5	0
2.ライフプラン設計	29	10	0
3.社会保障制度	36	3	0
4.セミナー全体について	34	5	0
5.会場での開催について	(26)	(1)	(10)
(大田)			
1.講演について	12	2	0
2.ライフプラン設計	9	5	0
3.社会保障制度	10	4	0
4.セミナー全体について	9	4	0
5.会場での開催について	(8)	(1)	(5)
(全体)			
1.講演について	62	15	1
2.ライフプラン設計	52	27	0
3.社会保障制度	62	16	1
4.セミナー全体について	56	21	0
5.会場での開催について	(50)	(3)	(23)

* アンケート項目の内容

- 1.講演について → 記念講演について
- 2.ライフプラン設計 → ライフプラン設計と公的保険・私的保険について
- 3.社会保障制度 → 社会保障制度の基礎知識・退職後プランについて
- 4.セミナー全体について → 全体的にこのセミナーについて
- 5.会場での開催について → おおの開催で今回のセミナーを開催すればいいと思いませんか

参加者の皆様方からのご意見 (抜粋)

(安来会場)

- 32オ メタボという名称は良く耳にするが、具体的なことが分からなかったので良い説明が受けられて良かった。
- 57オ パワーポイントを使い、大変分かりやすかった。特に、メタリックシンドロームについて、今ひとつ理解していなかったが、今回でよく分かった。
- 58オ 他の多くの人にも聞いてもらいたいと思いました。
- 48オ 退職後、年金受給期間の生活設計の重要性を再認識した。
- 39オ 年金について、もう少し時間をかけてお話を聞いてほしい。
- 52オ 若いときにこういうセミナーに出ていれば、老後の生活設計にゆとりが持てたと思う。
- 31オ どうしても例をあげてということになるので、実際、自分にどのくらいの保障が必要なのかについては分からないままだし、正確に知りたければ窓口へということなんだと思った。
- 32オ 資料的なものはA4サイズにまとめてほしい。会場によるとありますが、手狭で広げにくいから。
- 52オ 難を言えば、物を書くための机があったらベストかな。資料のやり場所も困っている人を見受けられる。プロジェクター設置がうまくいかず、最初の頃、画面が映がなくて見にくかったのは残念です。ただ、スタッフの方には感謝、感謝です。若い人に聞いてほしいですね。知る事に遅くないと思いますが、若いときから老後に設計できたかなと少し思っています。
- 31オ 盛りだくさんで後半は疲れ気味になってしまった。

(雲南会場)

- 29オ クレジットの現状がよく理解できた。
- 54オ なかなかの演出で良かった。県内でこのような被害が事実あることも分かりました。家族にも教たいと思います。
- 37オ 知らないことは不安になるという、講師さんの言葉のとおりで知識が少しでもあれば安心につながったと思う。
- 39オ 実例ばかりで参考になりました。20代ごろクレジット契約をよくしていたのを思い出しました。何とか収入範囲内とすることができましたが、無知とは本当に恐ろしいことです。周囲の人達へも是非聞いてほしいです。家族がまずきちんと話していきます。
- 34オ 劇にしていたので分かりやすくて良かったです。悲しい社会になってしまったことが残念ですけど、正義の味方がいてくれることだとわかって良かったです。頑張ってください。
- 29オ 将来の位費用がかかるかという事を考えた事がなかったので、良い機会となった。
- 45オ 自分の持っている保険、付き合いですめられるがまだ入っていませんが、見直すポイントが分かりました。
- 35オ 内容について改めて認識することもあった。年金問題は正直分からないところが多い。
- 54オ 今回のセミナーと違ってよい。記念講演はよかった。
- 31オ おもしろかったです。休みの日にこんなことは子供も聞いて楽しかったけれど、都合をつけて出れて良かったです。

(大田会場)

- 31オ 事例を口で話すのが通順だが、こういった演劇形式も分かりやすいと思った。と同時に、注意しなければならぬと改めて思った。
- 32オ だまされる手口が具体的にわかり良かった。
- 38オ 最後どうなったかまで演じてほしい。
- 49オ なるほどなと思いました。似たようなものや小規模なものに何度かあたったなと思います。大学にいて子供が心配…。学生が社会に出る前にこういう劇をしてほしいのです。(分かりやすいので)
- 31オ 会社の営業という感じが強かった。でも知らない手も聞かせていただけて良かったです。
- 38オ 年金に対する不安がある。対策が必要だと思った。
- 49オ ボリュームがありすぎて一度では十分な理解ができない。
- 31オ 社会保障制度は現在もめまぐるしく動いているので、今回こういった内容について学ぶのはとてもよいと思う。全体的には、年齢が高めの方が対象となるような内容であるけど、若い人をはじめ、多くの人がこのセミナーに参加すればいいと思う。(希望者には、パワーポイントファイルを差し上げてみるというのはいい)
- 32オ より多くの人にセミナーを受講してもらえたらと思う。
- 54オ 毎年受講していますが、年々内容も充実してきて職場で生かしていく事ばかりでした。準備されたスタッフ、役員の皆さんにご苦労様でした。

第19回チャリティー基金スポーツ大会開催

田邊さん(東部会場)
古川さん(中部会場)
和田さん(西部会場)が
見事優勝!!!

県労福協主催、第19回チャリティー基金スポーツ大会は、好天気の中、県下3会場（10月10日に西部会場・金城C.C.、10月18日に中部会場・クラシック鳥根、10月22日に東部会場・大山アークC.C.）で、親睦と交流並びに財団法人しまね・さわやか生涯福祉センターへのチャリティー基金（カンパ）を目的として開催されました。ご協力頂きました皆様方に深く感謝申し上げます。

<3位までの入賞者は下表の通りです>

参加者の皆様方からご寄附頂きました1人当たり1,000円（東部69,000円・中部42,000円・西部54,000円）は、総額で165,000円となり、大崎会長より財団法人しまね・さわやか生涯福祉センター山縣泰枝専務理事へ寄贈されました。

〈東部会場〉

順位	氏名	グロス	ハンディ	ネット
優勝	田邊 光男	87	18.0	69.0
準優勝	橋本 英博	90	19.2	70.8
3位	伊藤 博章	88	14.4	71.6

〈中部会場〉

順位	氏名	グロス	ハンディ	ネット
優勝	古川 信正	106	34.8	71.2
準優勝	新田 利治	93	20.4	72.6
3位	原 幸夫	97	24.0	73.0

〈西部会場〉

順位	氏名	グロス	ハンディ	ネット
優勝	和田 昌展	94	22.8	71.2
準優勝	金山 正司	83	9.6	73.4
3位	増和 満	89	15.6	73.4



大崎会長よりさわやか山縣専務へ寄付金を寄贈

= 開会式 =

〈東部会場〉



〈中部会場〉



〈西部会場〉



= 閉会式 =



西部労福協第26回研究集会参加報告



日時/2007年11月8日(木)～9日(金)

場所/山口市湯田温泉「ホテルニュータナカ」

報告者●中国労働金庫 浜田支店 支店長 今岡 健

写真は島根県から参加された皆さん

研修会には中国の関係者80名が参加、主催者を代表して西部労福協坂根会長が「政治・経済情勢の変化の中にあつて、労働協働活動を意味あるものにする努力が必要」とあいさつ。山口県労協協では政策研究委員会を立ち上げ、地方の現実を直視した福祉行動指針として「労働者福祉21世紀ビジョン」を刊行(1998年版の改訂)したことを紹介された。来賓として、山口県商工労働部、山口市市長からあいさつがあり、その後、2日間にわたり、2つの基調講演と特別報告があった。

1日目

◎基調講演① 地域労働者福祉運動における労働協働の果たすべき役割

山口県労働政策研究委員会 座長 安部 一成

「今の労働者は勉強しない。情報の渦に翻弄されている」と厳しい。講師は山口大学の名譽教授でもあり、「労働者福祉21世紀ビジョン」にもかかわつてきた方。若・学が手を結び「地域の労働者福祉政策をつくらう」と示えられた。雇用、収入、老後が労働者の三大不安。年収250万円以下の、相対的貧困者も増大しているとのこと。こうして労働者の中にも格差が生じ、階層化が進んでいる。加えて、経済のグローバル化は全世界の労働者の状態を劣化させており、今こそ「世界の労働者は団結せよ」だ。

地域でも行政の合理化と住み良しの懸念により労働格差が進む。「地域振興策」は、圧倒的多数を占める労働者の福祉増進の観点からいかにあるべきかを問うなくてはならないと述べられた。

労働者福祉は、自助努力、互助、公助の3要因を適正に組み合わせることが重要。互助組織としての労働協働に大きな役割が期待されている。①広範・多数の労働者の連帯意識の涵養(基本的認識の共有化)、②構成団体の特化と連携による相乗効果の創出、③独自のネットワークの構築と強力な活動、④調査・研究・提言活動(若・学連携)の4点を果たすべき役割としてまとめられた。

◎特別報告②

シニアの地域デビュー応援ガイドについて(職場から地域へ)

山口県立大学社会福祉学部 教授 高野 和良

これからはシニアが地域社会の担い手として地域住民を支える社会貢献活動をさらに進めていく必要がある、として発行されたのが「ガイドブック」その背景にある現状について報告された。

例えば山口県における総人口に占める高齢者(65歳以上)割合は2005年の25%から2020年には35%に、後期高齢者(75歳以上)は12%から19%に増加すると推計されている。過疎地域では、祭りなどの行事が年々少なくなつていくという。担い手がいないのだ。高齢者が増えるということは、社会的サポートの必要となる人々が増えるということである。一世代あたりの構成員は1960年の4.13人から2000年には2.76人に減少、家族の極小化が進む。2020年には高齢者のうち単独または夫婦のみで暮らし世帯が約7割に達すること。余談だが、大都市部では団地における40・50歳代の孤独死を防止するために、高齢者が見守りをしていこうという笑うに笑えない現実も披露された。

こうした現代、自立・参画・自己実現の「生涯現役



社会づくり」を通じて社会連帯を再生する必要性(支え、支えられあう社会の実現)があるが、生活課題が多様化した中で伝統的な「地域力」では対応できず、民生委員や専門職などの人的資源と福祉専門機関や福祉NPOなどの社会資源がネットワークを形成し、協働による組織的な活動展開が肝要だと述べられた。

2日目

◎基調講演② ライフサポートセンターの課題と期待

龍谷大学経済学部 教授 石川 剛一

ライフサポートセンター(ワンストップサービス)が誕生した背景として、家庭や地域の機能不全によつて子育て、介護、老後といった課題が深刻化している現状がある。ニートや中高年の雇用・就労も既存の労働運動では解決できない。労働問題固有の領域から市民生活共有の領域へウイングを拡大し、地域化・生涯化への対応が必要となった。

情報・相談機能、事業、活動(運動)の三位一体的展開による相乗効果を目指す、必要な相談ノウハウ、ヒト、カネ、拠点をどう確保するのが課題。センターでの問題解決機能と各種専門団体へのつなぎ機能を分別し、事業団体である労働・労務やNPOなどの連携したネットワーク型の展開が重要とされた。また、自ら経営者としての重要性も指摘された。

具体的な問題提起として、先進地における取り組み(例えば子育て支援事業では、幼稚園の送迎を行なうファミリーサポート事業や病時・病後の預かりを行なう緊急サポート事業など)を数多く紹介され、労働協働は復活してきている、という講師の言葉に納得できた。

◎特別報告②

第39次欧州労働者福祉視察団報告

高知県労働協 会長 岡林 俊司

9月に実施された視察について、スライドを使って報告された。訪問先はデンマーク、フィンランド、ノルウェーの3国で、労働組合をはじめ高齢者福祉施設や男女平等センターなどを訪問したとのこと。

さすがにどの国も、医療、教育、福祉、労働の分野で高福祉の実例が並ぶ。高負担(例えばデンマークでは、所得税の平均が50%、消費税が25%)で物価も高く感じたとのことだが、日本のような著しい格差がないのではとの報告も。

ワールドマップ・オブ・ハピネスによると、デンマークは豊かさ・幸福度・満足度は世界1位。ちなみに、日本は90位とのこと。

以上

2008年度政策・制度 県知事要請書を提出

県労協活動への支援強化を要請

去る11月16日、県商工労働部長室において、2008年度政策・制度県知事要請（11月5日付）がなされた。

要請事項は、

- 1、労働者福祉運動の育成・強化について
- 2、中小企業労働者の福祉の充実について
- 3、消費者施策の充実について
- 4、少子・高齢化社会の対応について
- 5、食の安全・安心の確保について
- 6、環境の保全について

以上6項目（回答については、3月号に掲載）に絞り、大崎会長から要点が説明されました。席上、山根商工労働部長は「できるだけだけの支援は行いたい、大変厳しい財政下ではある。労協協の皆さんと共に知恵を出し、労働者福祉の推進を図っていききたい。具体的な要請項目についての回答は、できるだけ早く回答させて頂きたい。」とする回答がなされた。

出席者

島根県

山根商工労働部長
玉串労働政策課長
得能労働福祉グループリーダー
赤名労働福祉グループ主任主事

労協協

石橋県議
大崎会長
堀内副会長
神門事務局長
原田幹事



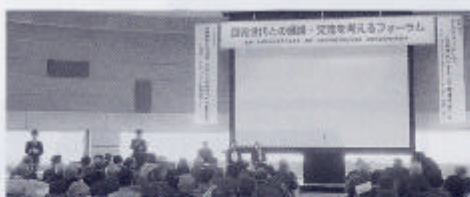
団塊世代との連携・交流を考えるフォーラム

県労協協は、11月23日、県老人クラブ連合会が主催する「団塊世代との連携・交流を考えるフォーラム」に共催し、松江地区、安来地区、雲南地区、出雲地区労協協の会員を含め、約300人の関係者が集う中、講演やシンポジウムを通し、今後の老人クラブのあり方や退職を迎え始めた団塊世代の地域へのかかわり方を模索した。

基調講演では、前島根大学学長の北川泉氏が、老人クラブの活動は「思いだけでなく、現金収入に結びついた生産活動で、地域を支えていく視点が大事。また、地域の現役世代との日常的な連携が極めて重要だ。」と強調した。

シンポジウムでは、労協協からパネリストに安来地区労協協・横田一造会長と出雲市平田町の岡文江氏に団塊世代の代表者としてお出掛けをいただき、「横田会長から、これまでの労協協の活動報告や、自らの市役所（福祉）での職場経験を通じての中で身につけた技術を地域に還元したい。岡氏からは、身近な地域で実践されている老人クラブの活動報告や、年金など政府の政策に物事の言える老人クラブに期待したい。」など、多くの提言がなされた。

また、来場者からの意見が求められ、県労協協大崎会長は「団塊世代との連携を深めることにより、地域の課題解決につながり発展しなければならぬ。労働者福祉協議会と社会福祉協議会との連携が不可欠であり、こうしたフォーラムは極めて重要で意義がある。」と指摘した。また、大崎会長は県労協協が取り組んでいる割賦販売法改正に関する請願署名の協力を求め、来場者から313筆の署名が寄せられた。



フォーラムの様子



基調講演 北川泉氏



シンポジウムの様子



パネリストに岡氏（左）と横田氏（右）

全労済からの
お願い

セット共済の大阪事務センター事務移行に伴う ご協力の要請について

2008年1月より各団体で取り扱いをしていただいていますセット共済（火災共済・団体生命共済・交通災害共済・慶弔共済）の事務処理が事務センターへ移行することとなりました。

全国の各県本部の処理を事務センターに集中することで、セット共済事務処理専任体制が実現し、業務品質の向上（迅速かつ正確な事務処理を目指す）を図ることを目的としています。また、スケールメリットを活かした効率化が期待できます。

一方、各県本部の共通事務を集中化し、効率的かつ正確な処理を実現することで、創出されたマンパワーを事業推進へ投入し、よりきめ細やかな推進活動を実践することも大きな目的としています。

各団体におかれましては、なにとぞ主旨ご理解の上、ご協力を賜りますようお願いいたします。さらに、右の3点につきまして格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご要請内容

1. 満期更新スケジュールの「早期化」のお願い
2. 「あたらしい」異動報告書ご使用のお願い
3. 掛金の商品別振込み「引き続き」ご協力のお願い

2008年1月業務移行により47都道府県の移行完了

2008年1月中国地方4県の移行により、
47都道府県すべての移行が完了。

大阪事務センター
29府県の処理を実施

東京事務センター
18都道県の処理を実施

必要な取り組み

処理日数の確保
帳票の統一

期待される効果

セット共済事務処理専任体制確保
業務品質の向上（迅速かつ正確な事務処理の確立）
スケールメリットを活かした処理コストの削減
マンパワーの創出



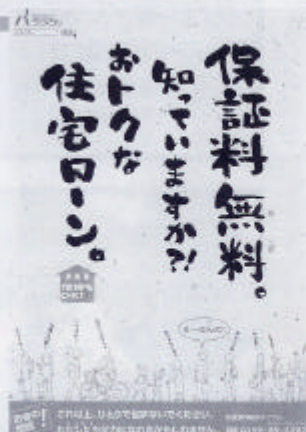
よりきめ細やかな推進活動の実践

組合員の声を反映したより魅力ある商品の提供



お知らせ：消費者トラブル学習に活用できるテキスト
「マネートラブルに かつ!」の改訂版がで
きました。ご希望は最寄の営業店へ。

有担保ローン(住宅ローン等)保証料の無料化を決定



中国労働金庫は、10月23日に開催した第9回理事会において「住宅ローン」「生き生きローン」など不動産を担保とするローン利用時の保証料を11月1日より労働金庫が負担することを決定した。これにより金利面では他の金融機関商品と差がなくなっていた住宅ローン等の保証料負担がなくなり、労働組合として労金に加入している会員の構成員(組合員等)にとっては大きなメリットとなる。

全国一斉に多重債務者対応を強化

〈くろうきん〉は2007年10月1日から2008年3月31日まで、多重債務者の生活再建と新たな多重債務者を出さないことを目的に全国一斉に「お金の問題! 気づきキャンペーン」を展開している。営業店での多重債務相談機能を強化するとともに解決策等を掲載したハンドブックを作成し多重債務者が相談しやすい体制を整えている。

また、中国労働金庫では11月から多重債務相談専用のフリーダイヤルも設置した。年末(31日)・年始(1・2・3日)と祝日は休業するが、それ以外の日は午前9時から午後7時まで受け付けている。



多重債務相談専用フリーダイヤル

☎ 0120-89-3787

ハンドブックご希望の方は
最寄の〈くろうきん営業店〉へ

NPO助成金制度・募集開始

「中国ろうきん NPO 助成金制度」の2007年度募集が始まった。この制度は立上げ準備中の団体と立上げ1年以内のNPOを対象に2004年度から展開している制度で島根県内団体へは総額40万円(中国5県総額300万円)を助成する。これまで、島根県内9団体に総額120万円を助成している。

島根県民のしあわせづくりのため果敢にチャレンジします。会員各位のご活躍とご多幸を祈念します。



中国労働金庫
島根県営業本部
本部長

遠藤 渡

みなさまの声を反映し、〈もっと〉
〈ずっと〉愛される〈ろうきん〉を
目指します。



全労済島根県本部
理事長

浅沼 延夫

50周年!みんなでたすけあい、
平和で安心できる社会づくりに
努めます。



連合島根
会長

矢倉 淳

県内で働くすべての労働者の連
帯に向け、連合島根はその先頭
に立ち頑張ります。



(財)しまね・さわやか
生涯福祉センター
理事長

矢倉 淳

地域から頼りにされる「さわやか
センター」をめざし、安心のサ
ービスを進めます。



島根県生活協同組合
連合会
会長理事

鎌田 憲男

生協法が改正され今年4月から
施行されます。生協の社会的役
割をより一層発揮して行きます。



フォーラム平和・
人権・環境しまね
代表

杉谷 肇

平和憲法の理念を実現し、核の
ない・争いのない世界を未来の
子供たちに!



(財)島根県中央労働
福祉センター(労働会館)
理事長

矢倉 淳

どなたにでも、手軽に安心してご
利用いただける会館をモットーに、
お客さまに愛される「ろうかん」
をめざします。



日立安来関連
労組連合会
議長

石塚 博

働く仲間と共に、連帯・挑戦・
創造を基本に対応していきます。



島根県友愛会
会長

仲田 敏幸

「ゆとり、豊かさ、社会的な公正」
の実現にむけ、構成組織の仲
間とともに、頑張ります。

編集委員

監事

幹事
事務局長

会長
副会長

本年も
宜しくお願
い申し上げ
ます。

神門 至 県労働協事務局
竹下陽子 県労働協事務局
南木憲治 中国労働金庫
石原 淳 全労済

岸 道三 連合島根

川野英樹 連合島根

小松原直樹 日立関連

土井正明 連合島根

桐田直人 連合島根

小村亮二 連合島根

宇都宮克明 連合島根

佐藤伸廣 連合島根

山縣泰枝 しまね・さわやか

原田圭介 労働会館

鎌田憲男 県生協連

古川信正 中国労働金庫

大下哲夫 全労済

石塚 博 日立関連

堀内幹夫 連合島根

郷原和弘 連合島根

仲田敏幸 連合島根

永野春樹 連合島根

矢倉 淳 連合島根

浅沼延夫 全労済

大崎康弘 幹事会推薦

遠藤 渡 中国労働金庫

あなたのまわりの情報をお知らせください。あて先は、「しまねろうふく」編集部まで。

しまねろうふく

2008.1 vol.358

2008年1月1日発行(1・3・4・6・8・10月発行)
編集/「しまねろうふく」編集部 発行責任者/神門 至
発行/島根県労働者福祉協議会 松江市御手船場町557-7 TEL0852-23-3302

HOMEPAGE <http://shimane.rofuku.net/>

E-mail : rofuku@gaea.ocn.ne.jp